

2020 年 SIC 活動報告

2020.12.7

1. 活動の概況

今年度はコロナ禍の影響により 3 月以降は一旦活動を自粛した。その後、5 月 8 日に非公式の実行委員会をオンラインで開催し、参加企業の対応状況をヒアリングしたところ、マイクロソフトの Teams を利用すれば SIC の活動をオンラインで実施することが可能との判断に至り、実行委員会等での議決をオンラインで実施することとなった。

現在、実行委員会、人材育成協議会およびその研修講座やシステム塾、分科会活動等はオンライン中心で実施している。

その一方で、SIC フォーラムと産学交流会については、相互意見交流の意味合いが強いことからオンラインではそぐわないと判断し、当面休止としていたが、チャット機能の活用等を図ることで、SIC フォーラムについては 11 月よりオンラインでの開催を再開した。また、産学交流会についても対面による座談会とオンラインの併用を図ることでの再開を検討中である。

2. 実行委員会の活動

1 月 20 日および 2 月 20 日開催の委員会以降コロナ禍でしばらく中断していたが、5 月 8 日の非公式委員会でオンラインでの開催が承認され、それ以後は以下に示す日程でほぼ月に 1 回計 6 回の委員会をオンラインで開催し、分科会や人材育成協議会での活動状況報告と今後の進め方についての議論を行った。また、8 月 19 日の実行委員会では新たに業務実行委員に就任した高木委員より、話題提供として「ITS システムのアーキテクチャ」についての紹介が行われた。

6 月 17 日、7 月 21 日、8 月 19 日、9 月 23 日、10 月 28 日、12 月 9 日

昨年度、デジタル人材の育成やオープンイノベーションの推進等に関して会員企業が抱える課題を抽出すべくアンケートを実施し、今期はその回答に基づき個別に会員企業にヒアリングを行って課題の深堀を試みた。コロナ禍により、個別ヒアリングは数社で中断せざるを得なかったが、総じて課題の深耕を試みても、その多くは各企業に固有の課題が多く、積極的に提示いただく状況には残念ながら至らなかった。今後は、単に課題を拾い出すのではなく、競争領域と協調領域を区分けして、協調領域に関しての業界横断的な課題を議論できるように進め方を再考していく必要がある。

3. 分科会の活動

優れた社会システムのデザインを描くことを目的として、以下の 3 つの分科会が設立さ

れ、活発な活動を行った。

- ・スマートフードシステム分科会
- ・システムヘルスケア分科会
- ・システムモビリティ分科会

「スマートフードシステム分科会」は、活動報告として8月に「スマートフードシステムに関わる政策提言」を取りまとめて外部に公開するとともに、農水省に提言の提示を行った。提言では、物流データのコード体系化やデータ流通構造の整備等7つの提言をまとめており、この提言を受けて農水省主導で農業機器制御のソフトウェアの標準化と共通化の施策が具体的に動き出すこととなった。

「スマートフードシステム分科会」は、政策提言という当初の目的を達成したことから、今期で終結とするが、提言に盛り込まれている物流データのコード体系化を具体的に実現するための分科会を後継分科会として立ち上げるべく現在準備中である。

「システムヘルスケア分科会」は、コロナ禍の最中も熱心な活動を続け、「人生百年時代」を踏まえた健康寿命延長のための新しいシステム的な提言を準備中である。

「システムモビリティ分科会」は、コロナ禍により一時活動が休止状態となったが、10月から活動を再開し、現在「流通の円滑化と効率化」を目指した提言を取りまとめるべく活動中である。

また、新たな分科会として「デジタルエコノミー分科会」を新設し、12月11日にキックオフの会合を開催する予定である。

4. 人材育成協議会の活動

人材育成協議会は毎月オンラインで開催した。また、今期は以下の研修講座を実施し、会員企業から合計約160名の参加をいただいた。

- ・システム構築のための最適化講座（1月）
- ・システム構築のための数理モデリング講座（3月）
- ・システム構築のための制御講座（5月）
- ・価値創造をシステムとして実現する「サービスシステム科学講座」（8月）
- ・表現モデリング入門講座（11月）
- ・社会シミュレーション講座（12月予定）

5. SIC フォーラム／産学交流会

- ・2月12日 産学交流会
「システム化とAIの展望」
松尾 豊 様（東京大学 教授）
- ・2月20日 第9回SICフォーラム

「農業データ連携基盤 WAGRI の推進」

林 茂彦 様 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 室長)

「Lumada の設計思想とエコシステムの実現に向けて」

岩寄 正明 様 (日立製作所 研究開発グループ 技師長)

・11月10日 第10回 SIC フォーラム (オンラインで開催)

「海事分野におけるシステムイノベーションへの取り組み」

安藤 英幸 様 (MTI (日本郵船グループ) 取締役 船舶物流技術部門長)

6. 広報活動

- ① 「SIC ニュースレター」を毎月発行。各号では、SIC 理事の方々を中心に、有識者の方々に貴重な論説を執筆頂いている。
- ② 主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC 便り」の発行を開始した。
- ③ 横幹連合の機関紙「横幹」に「デジタルイノベーションにおけるシステムイノベーション」特集 (Vol.14、No.1、2020年6月発行)として SIC 特集号が組まれた。本号の別刷りは会員企業に配布済。
- ④ SIC 紹介パンフレットを作成。

7. 海外との交流

- ① 米国 3月に木村副センター長が、MIT IDSS と TRI を訪問し、システム化に関する意見交換を実施。
- ② 中国 9月に木村副センター長が、CSSC (Chinese Systems Science Conference) 2020にて基調招待講演を行った。

8. 外部団体との連携活動

以下の3団体と、連携に関する包括協定を締結した。

- ・大学共同利用機関法人 統計数理研究所
- ・特定非営利法人 横幹連合
- ・都立産業技術大学院大学

また、5月に独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) に、新たに「デジタルアーキテクチャデザインセンター (DADC)」が設立され、斎藤 SIC センター長が組織長として就任された。DADC との積極的な連携についても鋭意調整を進めている。

以上